



令和7年度 奈良県幼・小・中・義務教育学校

教育課程研究集会

小・中 特別の教科 道徳



# 学習指導要領の趣旨を踏まえた 指導の在り方について

奈良県教育委員会事務局  
義務教育課  
授業力向上係  
指導主事 仲川 克子

道徳科の質的充実を図るために、どんなことに留意しながら進めていくことが大切だと考えますか？



第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## 道徳科の目標

### 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

### 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

### 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

道徳科の中で道徳的価値の理解のための指導をどのように行うのかは、授業者の意図や工夫によるが、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習を欠くことはできない。また、指導の際には、**特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切である。**

### 自己を見つめ

これまでの**自分の経験**や**そのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めること**

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

- ・ 自己を見つめる学習を通して、児童は道徳的価値の理解と同時に、自己理解を深める。
- ・ 児童自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるようになる。
- ・ 道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通じた、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解する。

## 道徳科の目標

### 多面的・多角的に考える

物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、**価値理解**と同時に**人間理解**や**他者理解**を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育む。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

#### ○指導に生かす具体的な多面的・多角的な見方の例

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考える。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考える。
- ・様々な登場人物の立場で考える。
- ・焦点を絞って考えたり、視野を広げて考えたりする。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考える。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考える。



### 自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めていることに強く意識させることが重要。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

例えば、

- ・ 児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。
- ・ 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- ・ これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

## 道徳性の諸様相

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があることとされた行動をとろうとする傾向性

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、**教師と児童生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題**である。学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、児童生徒自らが調和的な道徳性を養うためのものである。それらは、教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての道徳科はもとより、全教育活動において、指導されなければならない。

## 明確な指導の意図をもつ

ねらいや指導内容についての教員の捉え方を明確にする。

ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教員の願いを明確にする。

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。

道徳的価値

児童生徒の実態

教材の活用

明確な指導の意図

道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められる。

## まとめ

- 道徳科が、学校の教育活動全体を通じて行う**道徳教育の要としての役割**が果たすことができるよう、**計画的、発展的な指導**を行うこと。
- **道徳科の特質を踏まえた**指導を行うこと。
- 道徳科のねらいを踏まえ、道徳科の授業で、**児童生徒に何について考えさせ、何に気付かせたいのか**を明確にもつこと。
- 指導過程や指導方法、教材・教具等の工夫は、**目的ではなく手段**であることを認識すること。

奈良県教育委員会HP「奈良県  
版道徳教育アーカイブ」

